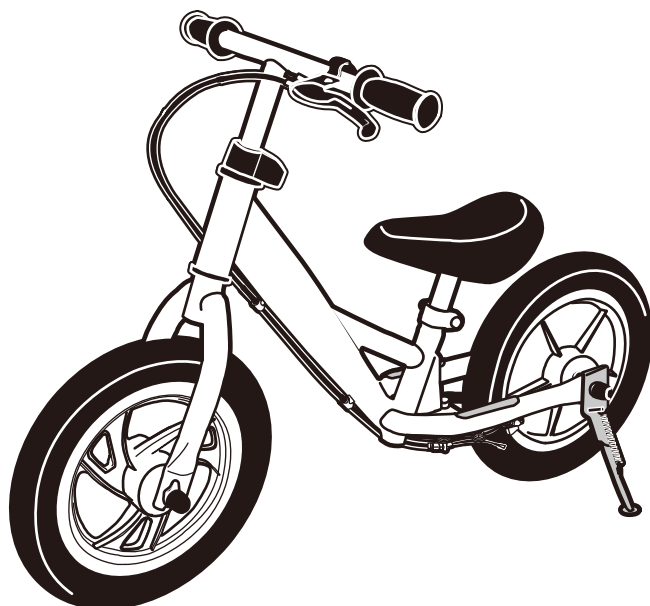


大切なお子様の安全のために正しくお使いください。

D-Bike ディーバイク

取扱説明書



目次

- ①定義とシンボルマーク
について・・・・・・・・・・P1
- ②梱包内容・・・・・・・・・・P1
- ③各部の名称・・・・・・・・・・P1
- ④安全上の注意事項・・・P2,3
- ⑤組み立て方法・・・・・・P3,4,5
- ⑥スタンドの取り扱い・・・・P5
- ⑦ハンドルとサドルの調整方法
・・・・・・・・・・P5
- ⑧ブレーキ調整方法・・・・・・P6
- ⑨乗車前の点検事項・・・・・・P6
- ⑩廃車の注意事項・・・・・・P6
- ◎品質保証書・・・・・・・・・・P7

お買い上げいただきまして誠にありがとうございます。この取扱説明書は必ずお読みいただき、安全上の注意事項を良くご理解の上、商品をご使用ください。不適切な取り扱いは事故につながる恐れがあります。また、本書をいつでも参照できるように大切に保管してください。

ides

① 定義とシンボルマークについて

この取扱説明書では、以下のような内容が「警告」、「注意」として記載されています。

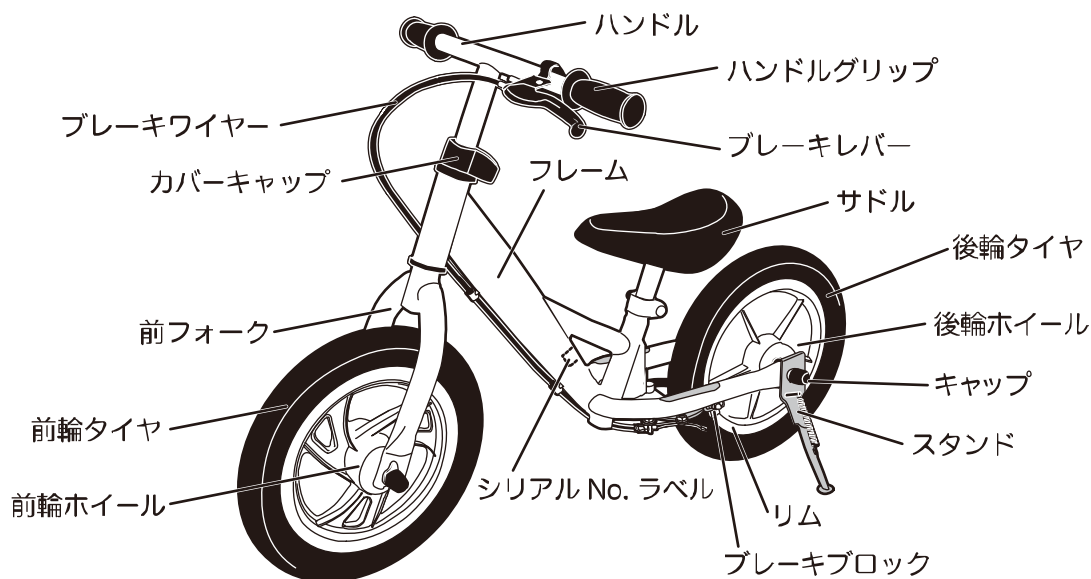
▲ 警告 身体に関する危険
守らないと人身事故が発生したり、創傷や火傷の可能性がある。

注意 財物や商品本体に関する危険
守らないと財物や商品本体の損傷の可能性がある。

② 梱包内容



③ 各部の名称



【材質】 ハンドルグリップ：ノンフタル酸 PVC ハンドル：スチール カバーキャップ：ポリプロピレン	フレーム：スチール タイヤ：EVA 発泡 ホイール：ポリプロピレン	サドルシート：ノンフタル酸 PVC キャップ：ポリプロピレン
--	---	-----------------------------------

4 安全上の注意事項

保護者の方へ 必ずお読みください。

対象年齢：2歳から
制限体重：20kgまで

本商品は、幼児用乗り物です。
安全のため、必ず下記の事項を守ってください。



ひにちかづけない



おどなどいっしょ



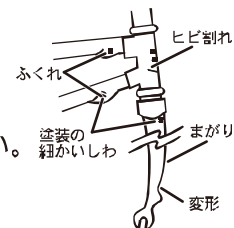
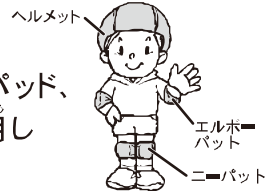
みずにもらさない

警告

- 本商品でお子様が遊ぶ場合、保護者が必ずそばについて安全を確保してください。
- 公道では使用しないでください。
- 平らな場所で使用してください。
- 使用が禁止されている場所で使用しないでください。
- 転倒する危険がありますので、注意して走行させてください。
- 雨の日、路面がしめっているときは使用しないでください。
- タイヤの周囲や回転部には、手や足を入れないでください。
- 走行速度は 5km/h 以下を守ってください。
- 2人乗りなどの危ない乗り方は絶対にしないでください。
- 片手運転、手放し運転はしないでください。
- 手やハンドルに荷物を引っ掛けたり、ペットを連れて走行しないでください。
- 夜間は乗らないでください。
- ブレーキ調整が必要な場合は、必ず自転車店へ依頼してください。
- ブレーキワイヤーが切れた場合は直ぐに自転車店で取り替えてください。また、安全のため1年毎に交換してください。

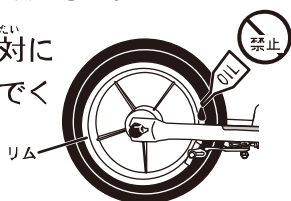


- ヘルメット、エルボーパッド、ニーパッドは必ず着用し走行してください。
- 危険な場所では、絶対に使用しないでください（坂道、凸凹面、段差の激しい路面、溝の近く、障害物のある場所など）。
- 樹脂製サンダルや足が出ている靴では走行しないでください。
- スカートやマフラーなどの衣類はタイヤに巻き込まれる恐れがあります。走行中は着用しないでください。
- 本商品（ディーバイク）の用途以外には使用しないでください。
- 自転車、オートバイ、自動車などで引っ張って使用しないでください。
- 傘やステッキ、釣りさおなどを車体に差し込んだり、吊り下げたりしないでください。
- サドルやハンドルは、限界標識の刻印が見える状態では乗らないでください。
- ブレーキレバーが回ると危険ですので、ゆるいときはネジを十分締め付けてください。
- 変形やひび割れ、ネジのゆるみなどの異常があるときは乗らないでください。



- 磨耗したブレーキブロックは危険ですので、残りの溝が1mmになったときはブレーキブロックを交換してください。

- 掃除をするときに絶対にリムに油を付けしないでください。

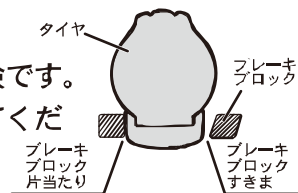


- 小さな部品があります。組み立てる際、誤飲の危険がありますのでお子様がそばにいない状態で行ってください。

- 長い間のご使用中にネジがゆるむことがあります。お手数でも締め直してください。

- ブレーキを強くかけたときハンドルグリップにブレーキレバーが接触する場合は大変危険です。その際は、自転車店に依頼してブレーキ調整を行ってください。やむ得ず自分で調整するときは6ページの「ブレーキの調整法」を参照し調整してください。

- ブレーキブロックの片当たりは大変危険です。自転車店で調整してください。



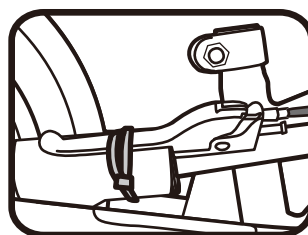
- 使用前には必ず手入れ、点検を行ってください。故障及び破損したまま使用しないでください。

注意

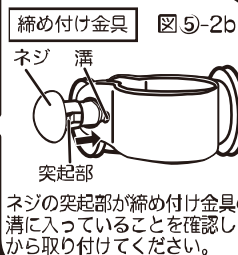
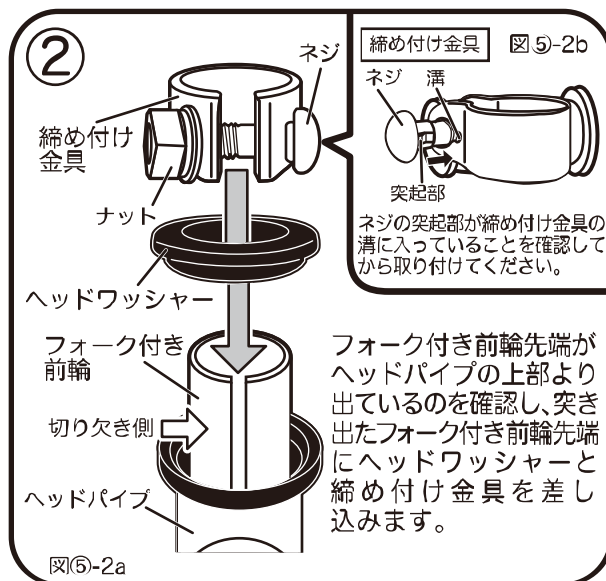
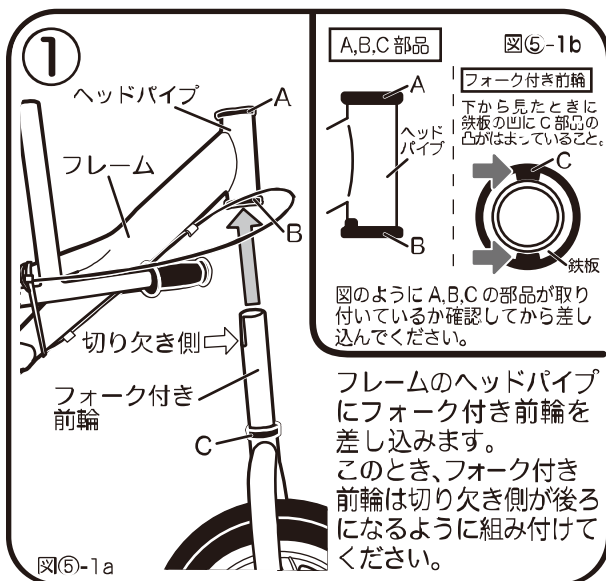
- 屋外で使用された後は、直射日光を避け、雨ざらしにしないでください。
- 火気のあるところ、高温の場所には近づけないでください。
- 砂場や水たまりで使用しないでください。

5 組み立て方法

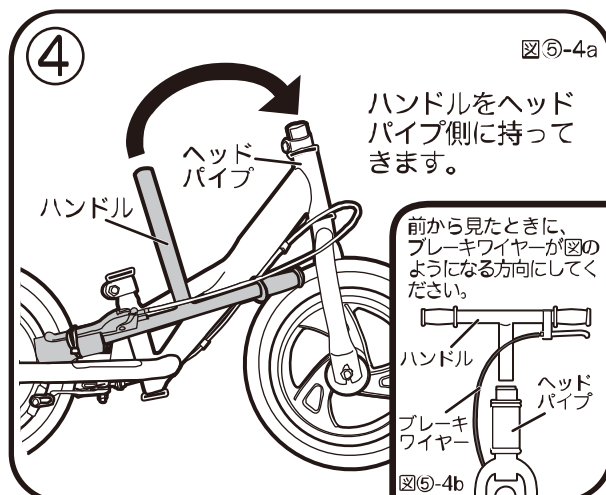
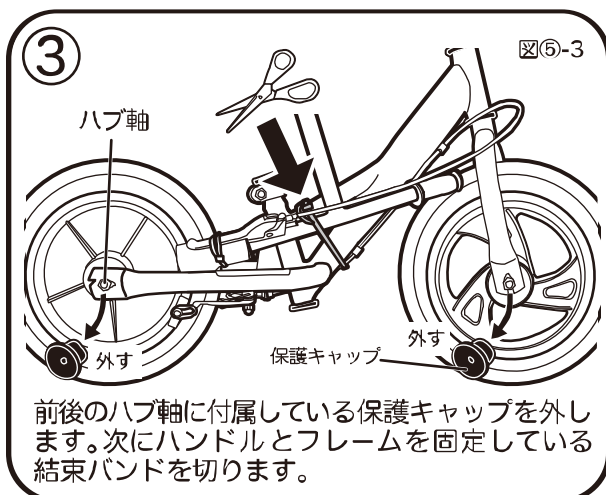
⚠ 結束ベルトはまだ切らないでください。



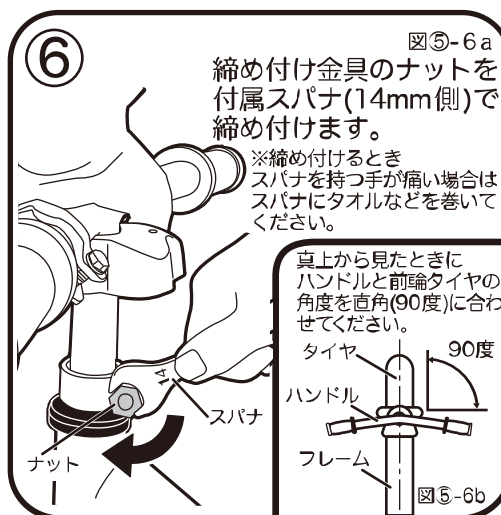
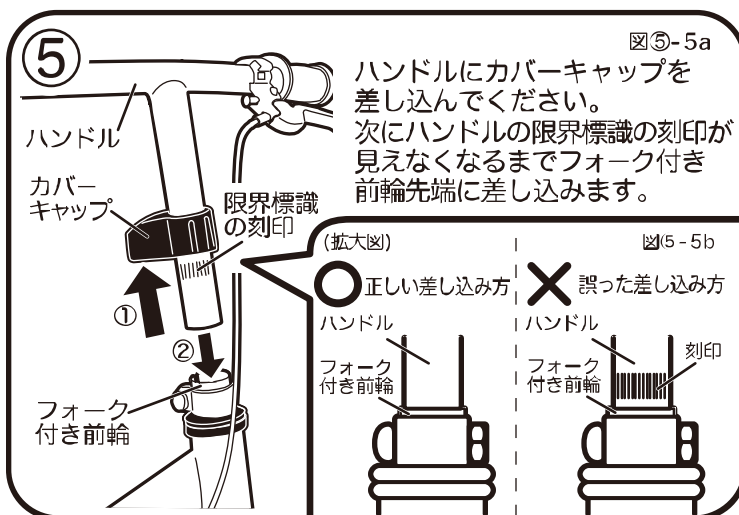
- 本商品に付属しているスパナ(工具)は簡易工具です。市販の工具(14mm)をお持ちの方はそちらの工具での組み立てをお奨めします。なお、付属している工具以外で締め付ける場合は締め過ぎに注意してください。



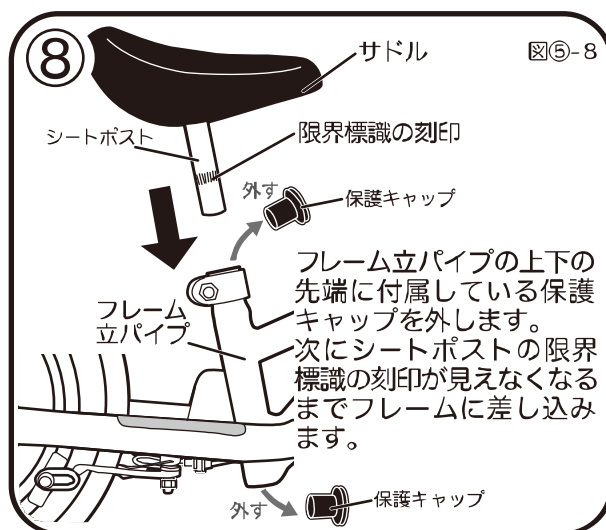
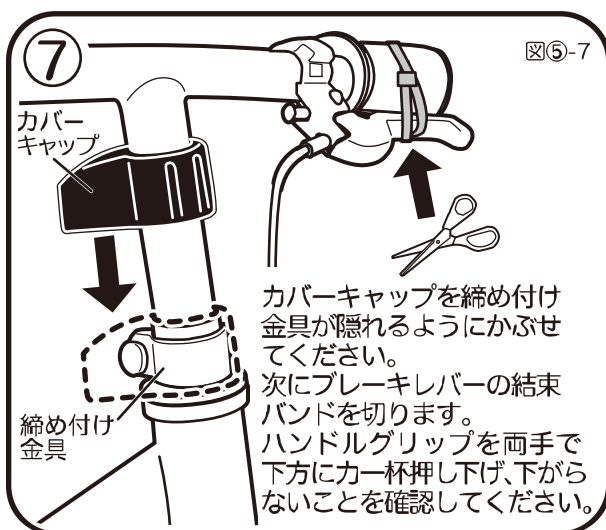
フォーク付き前輪先端がヘッドパイプの上部より出ているのを確認し、突き出たフォーク付き前輪先端にヘッドワッシャーと締め付け金具を差し込みます。

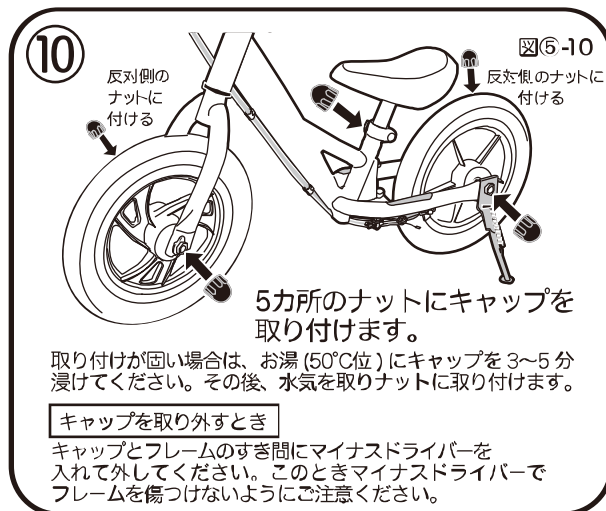
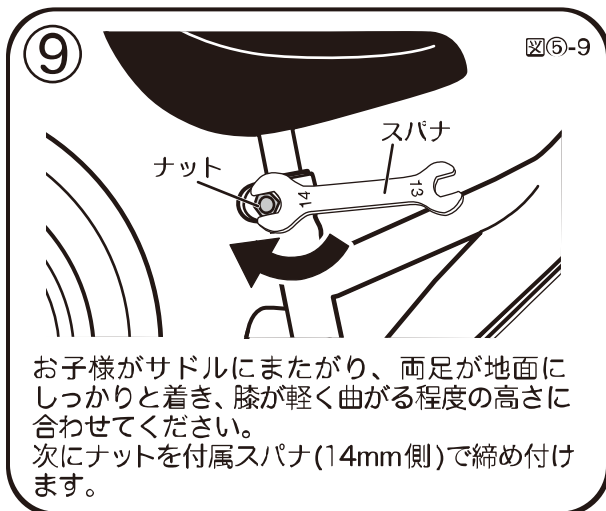


注意 ● はさみなどの刃物を使用するときは、ケガをしないように注意してください。



注意 ● ハンドルをフォーク付き前輪に差し込むときに、無理な力が加わるとハンドルの塗装が剥がれることがあります。

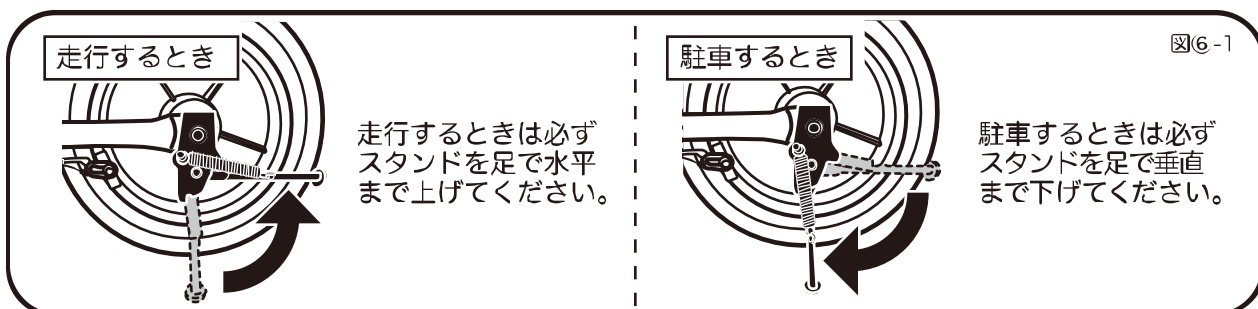




※最後に「ハンドル、サドル固定にゆるみがないか」「車輪は円滑に回るか」を確認し、完成です。

▲警告 ●小さな部品があります。組み立てる際、誤飲の危険がありますのでお子様がそばにいない状態で行ってください。

⑥ スタンドの取り扱い



▲警告 ●スタンドを手で動かさないでください。ケガをする恐れがあります。

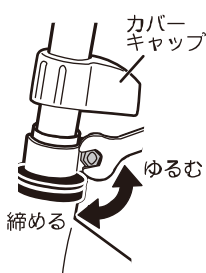
⑦ ハンドルとサドルの調整方法

お子様の身長に合わせて、ハンドルとサドルを調整してください。
ハンドルパイプ、シートポストには限界標識の刻印がありますので、これ以上あげないでください。限界標識の刻印以上にあげると、ハンドルパイプやシートポストが曲がったり折れたりして大変危険です。ナットを締める付けるときは、保護者の方が行ってください。



●ハンドルの調整方法

カバーキャップを上げ、締め付け金具のナットをゆるめるとハンドルが上下に動きます。
お子様の身長に合わせて高さを決め、締め付け金具のナットを締め付けてください。締め付けた後ハンドルグリップを両手で下方にカー杯押し下げ、下がらないことを確認してください。



●サドルの調整方法

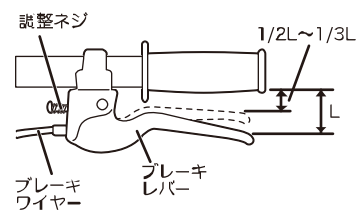
サドルの下部にあるキャップを外し、ナットをゆるめるとシートポストが上下に動きます。
お子様の身長に合わせて高さを決め、ナットを締め付けてください。締め付けた後上下、左右に動かし動かないことを確認してください。



⑧ ブレーキ調整方法

ブレーキレバーの調整

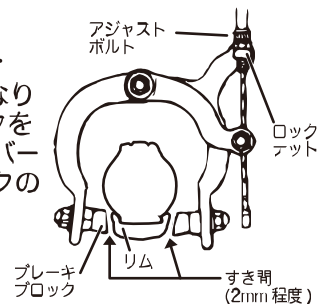
- 調整ネジをドライバーで回して調整します。
- ブレーキは安全に乘るために一番大切なものです。いつも最高の性能が発揮できるように乗車の前に必ず点検してください。
ブレーキレバーの開きは $1/2L \sim 1/3L$ くらいでブレーキが効くようにしてください (L = 握らない状態のグリップとレバーの距離)。



ブレーキの調整

※ブレーキの調整は必ず自転車店にご相談ください。

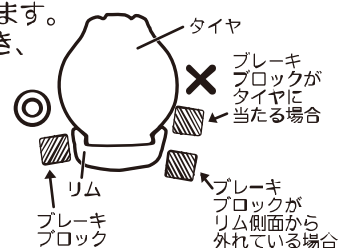
- 長期間使用しますと、ブレーキワイヤーの伸び等によりブレーキの効きが悪くなります。その場合、右図のロックナットを一時ゆるめた後、指でブレーキブロックを両側からリムに押しつけるようにしてアジャストボルトをゆるめ、ブレーキレバーの遊びを調整してからロックナットを締め直します。リムとブレーキブロックのすき間が左右それぞれ 2mm 程度が適当です。



⚠ 警告

欠の①～⑤に当てはまる場合は、自転車店にご相談ください。
なお、ブレーキ各部は説明書記載以外の調整を行わないでください。

- 1 アジャストボルトで調整しきれない場合。
- 2 片効きしている場合。片効きしていると、適切なリムのすき間が得られないばかりか、ブレーキブロックが常にリムに当たり、ブレーキブロックの磨耗が激しくなります。
- 3 ブレーキブロックがリム側面に正しく合っていない場合。ブレーキをかけたとき、ブロックがタイヤに当たっているとタイヤがすり減る原因となります。
また、リム側面からブレーキブロックが外れているとブレーキブロックの片減りを起こします。
- 4 ブレーキブロックが磨耗した場合。ブレーキブロックが磨耗して溝の残りが 1mm 以下になったときは、ブレーキブロックを交換してください。
- 5 ブレーキの効きが悪くなった場合。



⑨ 乗車前の点検事項

●ネジの点検

本体を 20cm くらい持ち上げて地面に落とし、雑音がしないか調べてください。
雑音がした場合、どこかのネジがゆるんでいる場合があります。特に車輪、ブレーキのネジがゆるんでいると事故の原因になります。

●車輪の固定の点検

車輪を叩いてみて動かないか点検してください。特に前車輪の固定がゆるいと段差等の乗り越えのとき脱輪してしまう危険があります。

●ブレーキの点検

ブレーキレバーを引いたまま、自転車を押さえながら押し進めて車輪が回転しないか調べてください。
効きが悪いとき、またはブレーキレバーの遊びが大きいときはすぐに自転車店で点検を受けてください。

●ハンドルの点検

ハンドルグリップを両手で下方にカーブ押し下げてみてください。また、車輪を股にはさんで固定しハンドルを左右に回してみてください。いずれの動作をした際にハンドルが動いてしまうと転倒の恐れがあり、大変危険です。
動いてしまう場合は 5 ページ「ハンドルの調整方法」の項目の説明通りに締め付けてください。

●サドルの点検

サドルを上下や左右に両手で動かしてみてください。動く場合は 5 ページ「サドルの調整方法」の項目の説明通りに締め付けてください。

⑩ 廃車の注意事項

- 本商品を廃車するときは、各自治体のゴミ分別や回収ルールにしたがってください。